

ヒメシジミ

Plebejus argus micrargus (Butler)

チョウ目シジミチョウ科

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

国カテゴリー 準絶滅危惧

選定理由

全国的に減少し、県内で観察される場所は生息基盤が不安定なうえ範囲が狭い。

形態

開張30mm程度の小型種。オスの翅表は青色で後翅外縁には黒斑が並ぶ。メスの翅表は黒褐色で後翅外縁に橙色の斑紋があり、この斑紋は前翅外縁に出ることもある。オスの裏面は灰白色、メスの裏面は淡い褐色で、ともに前後翅外縁に橙色の帯がある。

国内分布

北海道、本州、九州に分布し、関東地方北部山地から中部地方にかけては分布が広く、北アルプスから上信越高原国立公園一帯にかけては生息密度が高い。

県内分布

白山周辺の尾添川流域と柳谷流域の溪流に沿った河原から稀に記録されているが、同じ場所で連年にわたって記録されたことはない。山岳溪流域を生息地とするため、調査は不十分で、分布の実態は良くわかっていない。

生態

年1回の発生で、6月下旬から7月下旬かけて、日当たりの良い溪流に沿った河原で観察されている。飛翔は緩やかで、草むらの低いところを飛び交い、オスは好んで湿地で吸水する。幼虫の食性は広くキク科、マメ科、バラ科、ヤナギ科など数十種の植物が全国で知られているが、本県では、マメ科のハギの仲間1種が知られているだけである。

生息地の条件

主な食草はアザミ類、ヨモギ類、イタドリ類、イワオウギなどであり、これらが生育する河原が残されていることが重要である。

生存の危機

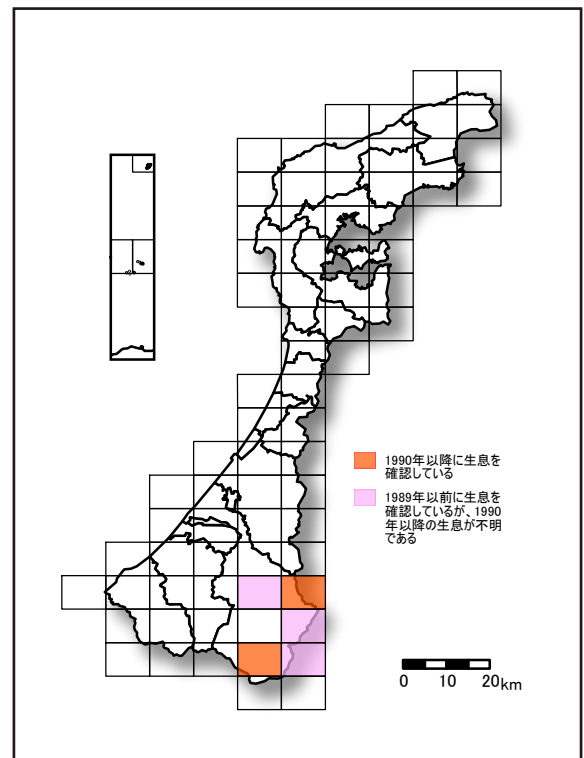
溪流に沿った河原は狭く小さいが、道路や公園、駐車場などに真っ先に開発される場所である。また、河原は不安定で小規模な出水で消失したり、逆に遷移が進んでスキ原になってしまうこともある。
(A)

参考文献

福田晴夫ほか 1984. ヒメシジミ. 原色日本蝶類生態図鑑(Ⅲ): 320-323. 保育社. 大阪.
松井正人 1998. 蝶類. 石川県の昆虫: 342-365. 石川県自然保護課.



写真提供者: 松井正人



県内の分布